



# 歴史探訪南区ヒストリー

～語り部に聞く歴史のツボ～

「住んでよし、訪れてよし」のまちづくり  
シーニックバイウェイとは、アメリカで生まれたまちづくりの制度で、「美しい景観づくり」、「活力ある地域づくり」、「魅力ある観光空間づくり」を“広域的”に進めていく取り組みです。南区では、町内会、商店街、大学、集客施設など、様々な団体が連携して、「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを進めています。

## 「北海道酪農の父」エドウィン・ダンの生涯



エドウィン・ダン記念館  
運営委員 園家 廣子さん

エドウィン・ダンは、明治6年、お雇い農業教師として、アメリカから日本に来ました。  
明治9年、東京から札幌に転任となり、同年秋、真駒内に牧牛場を開設しました。そこで、札幌農学校の町村金弥（元北海道知事・町村金五の父）などに酪農を指導しています。  
明治16年、アメリカに帰国するも、翌年、外交官に転身して再来日。晩年は、米国系石油会社の日本支配人を務めるなど、生涯多彩な顔を持ったことが特徴です。



**歴史のツボ!**  
エドウィン・ダンは、札幌農学校のクラーク博士とも親交がありました。

## 開拓の苦勞と簾舞通行屋の歴史



旧簾舞通行屋  
管理人 黒岩 裕さん

明治5年、開拓使が簾舞通行屋を設置しましたが、当時、周辺は深い原生林で、熊や狼が頻繁に出没するような環境でした。  
屋守となった黒岩清五郎の一家は、過酷な開墾作業を行いながら、通行屋を利用する旅人や開拓者の接待に当たりました。明治17年に、官営の通行屋は廃止されますが、その後も建物は、宿屋、役所の出先機関、学校などに利用されています。  
現在は資料館として一般公開しており、通行屋の建物としては札幌で唯一現存しています。



**歴史のツボ!**  
通行屋は、札幌本府や平岸村と定山溪を結ぶ拠点としての役割を果たしていました。

## 札幌の開拓を支えた街・南区



札幌商工会議所  
観光ボランティアガイド 渡邊 昇さん

札幌市資料館、道庁赤れんが、豊平館などは、札幌を代表する歴史的建造物ですが、これらの建物には、石山の軟石や、硬石山の硬石が使われています。  
また、明治初期、豊平館などの建設に使われた木材は、滝野に設置されたアシリベツ山器械場から運搬されていました。  
このように見ていくと、南区は石材や木材などの資源の供給地として、札幌の開拓を支えた街といえます。



**歴史のツボ!**  
中央区と南区を結ぶ国道230号は、石材を運搬する馬車鉄道のルートがあったため、「石山通」と呼ばれるようになりました。

# 札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート

# 南区 歴史探訪

エドウィン・ダン記念館



定山溪の舟遊び



札幌軟石採掘



札幌オリンピック



定山溪鉄道

写真提供:札幌市

